

### 第3章 GPSによる行動追跡調査

本事業では有害鳥獣捕獲許可等により、人に追い込まれた状態でニホンジカが県境域等においてどのように行動するのか把握し、行動特性を把握する目的でニホンジカのGPSによる追跡調査を行った。

#### 1. 捕獲個体について

捕獲個体の捕獲日、捕獲場所、年齢を以下に記載する。場所を図3-1に、個体の外部計測値と装着した標識の情報等は表3-1に示した。

- ・捕獲日 : 2011年11月22日
- ・捕獲場所 : 高知県四万十市 西土佐 藪ヶ市
- ・性別・年齢 : オス 1歳



図3-1 GPS装着個体の捕獲地点

表 3-1 GPS 装着個体の情報

体重 (kg)	全長 (mm)	頭囲 (mm)	首囲(中) (mm)	胸囲 (mm)	胴囲 (mm)	腰囲 (mm)
24	1068	339	258	629	797	656
標識	耳標	番号 色	9 黄色	(左耳)		
発信器	首輪型	Tellus 2D	T5H-2742 スケジュール		初期設定	1時間間隔 故障後 6時間間隔

## 2. 放獣後の行動

本個体には Followit 社 (スウェーデン) の GPS collar Tellus 2D を装着した。装着時の GPS の測位スケジュールは 1 時間間隔と設定していたが、1 月 16 日にデータのリモートダウンロードを試みたところ、12 月 27 日 21 時以前のデータが取得できない状況となっており、27 日 23 時以後に取得されたデータは 6 時間間隔での測位データとなっていた。この後、2 月 14 日に再度データダウンロードを行ったが、データの状態には変化がなかった。

2 月 14 日までの位置データ (活動点) は合計で 170 点取得された。このうち精度が高い 3D データは 128 点 (約 75.3%)、やや精度が劣ると思われる 2D データは 42 点 (約 24.7%) であった。活動点の配置と 3D データによる最外郭を図 3-2 に示した。最外郭の面積は 5.4km<sup>2</sup> であった (図 3-2)。

取得された測位データでは、データが欠測していたため放獣直後の行動は不明であるが、12 月下旬には捕獲地点から約 2km 北東の山塊に移動し、1 月上旬には西側の山塊に移動したことが確認された。行動している地点は山塊の上部に限られ、集落周辺地域での行動は認められなかった。

表 3-2 は、活動点を国土地理院 50m メッシュ標高と重ね合わせ、各時間帯の活動点の標高を平均値として示したものである。この表を見ると、活動点の標高は昼間も夜間もあまり変化はなく、追跡個体は一日を通じて比較的標高の高い地域で活動しているものと推測された。

追跡期間が短期間であるため、小さな動きしか把握できていないが、本個体は少なくとも 1 月から 2 月にかけての約 2 ヶ月間は標高 200m 以上の山中に留まっていることが多く、標高を下げて集落近傍や農地に出現するような動きは示さなかった。その理由は明らかではないが、推測できることとしては、山中における食物の資源量が比較的豊富であり、低標高地へ移動する必要がないこと、狩猟などによる攪乱を受けにくいやや標高の高い地域に留まり、捕獲を回避しようとしているなどが挙げられる。

本個体と捕獲圧との関係は、囲いわなと捕獲圧との関係を交えて次章で言及する。

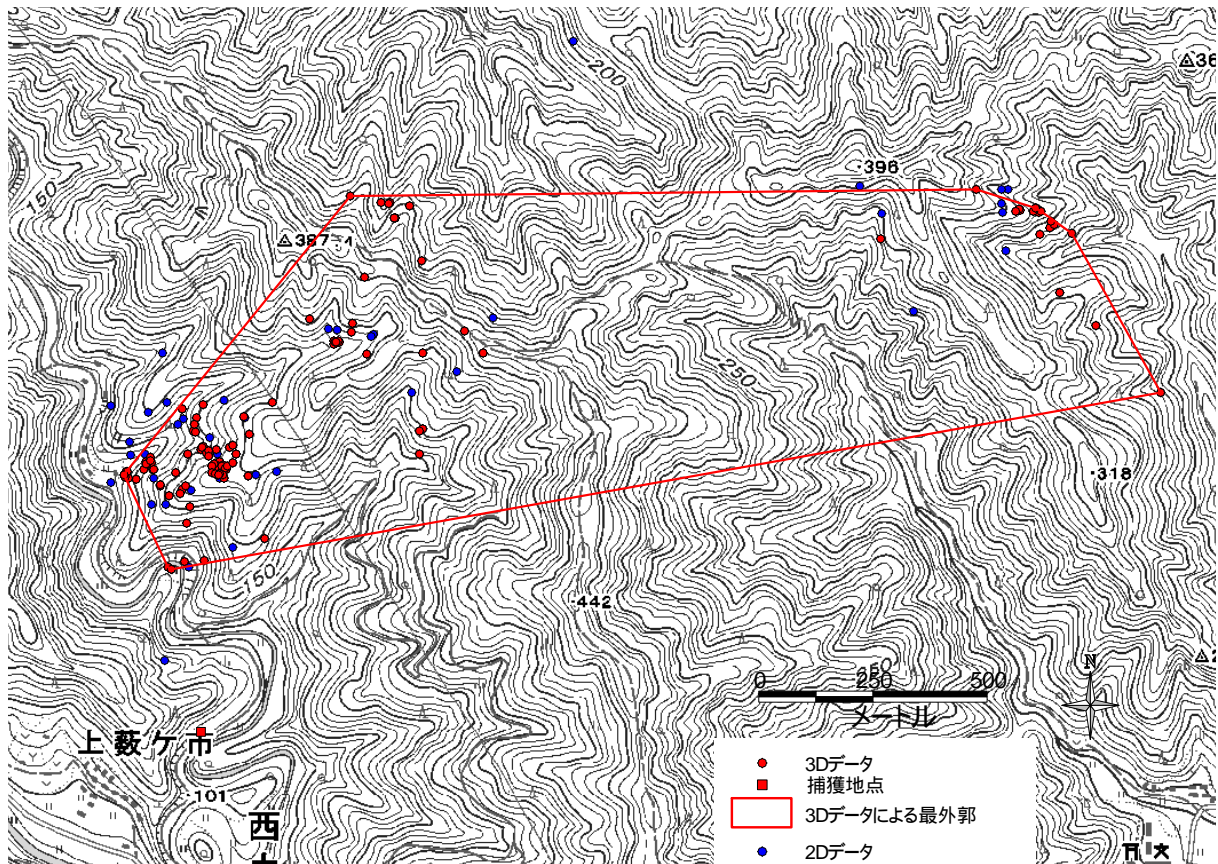


図3-2 GPS装着個体の活動点(2Dを含む)および3Dデータによる最外郭

表3-2 時間帯別標高

時間	データ数	標高	標準偏差
0時	45	225.6 ±	55.8
6時	40	227.4 ±	58.2
12時	44	221.6 ±	52.9
18時	39	232.0 ±	59.4